

## 競技運営に関する注意事項及び禁止事項

- 1 各チーム責任者(監督)は、会場に到着したら その旨を大会本部に報告を行なうこと。
- 2 打順表の提出は、その日の第1試合は開始予定時刻の30分前までに、第2試合以降は前の試合の3回終了時に、監督と主将が大会本部に提出し、登録原簿と照合ののち、球審立会いのもと攻守を決定する。攻守決定後、先発バッテリーのみブルペンを使用することができる。
- 3 シートノックは、後攻チームより行い、時間は5分間とする。ノッカーも選手と同様のユニフォームを着用し、捕手はプロテクター、レガース、捕手用ヘルメット、ファウルカップを着用すること。なお、大会運営上、シートノックなしで試合を開始することもある。シートノック時、ダートサークル内に留まる、あるいは出入りする補助員は、ヘルメットを着用すること。補助員としてコーチ(背番号 29・28)を認める。
- 4 サイドノックは、試合開始前の時間が許す範囲において認める。補助員は、ヘルメットを着用する。内野手と外野手は、別々の場所から別々のノッカーが行うこと。ノッカーは、背番号 30・29・28 とする。  
\*内野手は、ベンチ前のスペースを使用し、塁間程度の距離でゴロの捕球練習とする。(飛球はダメ)  
\*外野手は、一塁または三塁後方のファウルテリリーから安全な方向に向けてノックを行うこと。
- 5 球場内ではトスパッティングのみ認める。
- 6 雨天の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な場合は、試合を行う。
- 7 その回の先頭打者は、準備投球が終わるまで次打者席で待機すること。また、次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りを禁止する。投手の準備投球に合わせて、ベンチ前での素振りを禁止する。
- 8 相手側のプレーヤーや審判員に手をかけたり、暴言を吐いたり、侮辱する言動を厳禁する。万一このような事態が生じたときには、退場を命じる。また、チームにも何らかのペナルティーを科すこととなる。
- 9 選手や審判員に対する全てのヤジを禁止する。また、スタンドからの応援団のヤジ及び目に余る行為はチームの責任とする。マナーを守った節度ある応援については、チームの責任において統制すること。
- 10 投手が投手板に触れて投球位置についたら、大きな声を発したり、歓声を上げたりすることを禁止する。
- 11 ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を委縮させるような言動を禁止する。
- 12 塁上の走者、あるいはコーチボックスやベンチから守備側(捕手)のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。
- 13 バックネット方向のファウルボールは攻撃側チームが拾う事。怪我防止の為両チームで奪い合わない事。
- 14 投手の12秒及び20秒ルール 【2026 競技者必携 頁9～10】  
投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受け取り打者に面した後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合は20秒以内に投球動作を開始しなければならない。  
違反した場合、球審はただちにボールを宣告する。
- 15 バッターボックスルール 【2026 競技者必携「アマチュア野球内規②項」頁88～89】  
打者は打撃姿勢をとった後は、例外規定(9項目)に該当する場合を除き、少なくとも一方の足をバッターボックス内に置いていなければならない。違反した場合、その試合で同一打者に対して2度目までは警告を与え、3度目からは投手の投球を待たずに「ストライク」を宣告する。
- 16 【指名打者の取り扱い】 【2026 競技者必携 頁55～57】  
指名打者ルールを使用することができる。ただし、二刀流選手を採用しない。
- 17 学童部バットの使用制限  
安全面を考慮し学童部では「一般用バット」のうち打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。なお、「一般用バット」でも上記以外のバットについて制限は行わない。(注)少年用バットの使用制限は行わない。
- 18 

その他の注意事項においては、下記をチーム全体で確認すること。 2026競技者必携、頁15～16【試合のスピード化・マナーに関する確認事項】 頁42～45【競技運営に関する注意事項】 頁46～50【競技に関する連盟特別規則 学童部】 頁57～59【試合中の禁止事項】 頁59～62【試合のスピード化に関する事項】 頁63 【競技者のマナーに関する事項】 頁64～66【用具・装具に関する事項】
--